タイトル：2022 年度 研究セミナー （第 23 回）
日時：2022 年 12 月 17 日（土）～18 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階マルチメディア会議室（304）

「議会主義と独裁体制：1920 年代のイランにおける議会制の確立」
徳永 佳晃（東京大学大学院 総合文化研究科博士課程）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所が主催する中東☆イスラームセミナーに参加したのは、修士課程の際に参加した教育セミナーに続いて 2 度目となります。本研究セミナーに参加を決めた理由は、博士論文の各章の中身が固まってきたなかで、全体の構想について一度頭を整理したいという思いがあったからでした。本セミナーは、博士論文の執筆予定者を対象としており、さらに発表者一人当たりの持ち時間が 2 時間（発表 1 時間＋討論 1 時間）と比較的余裕を持ったスケジュールが組まれています。この点で、（博士論文の 1 章分に相当するような）既に一定程度完成され、完結している議論を短い時間でプレゼンする、研究会や学会での発表とはスタイルが大きく異なります。その意味で、本セミナーは、その発表に向けた準備作業も含めて、博士論文各章の執筆を終えて全体をまとめる作業へと進むにあたり、貴重な機会となりました。加えて、本番の発表においては、イラン及び西アジア地域を専門とされる先生方から、様々な質問やコメント、助言を頂きました。私にとって、このように多くの先生方から博士論文の全体構想に関するご指導頂ける経験は、この機会を除いて所属大学の本審査及び予備審査のみであり、その点でも非常に有意義でした。

さらに、小倉先生による博士論文執筆の体験談・レクチャーからも、多くの点で学ばせていただきました。中でも、博士論文の執筆は一つの通過点であるとのお考えが非常に印象に残りました。現在は、目の前にある博士論文をいかに期限内に執筆するかという問題で頭が一杯になってしまいますが、その後の研究キャリア、その発展性を少しでも意識しながら今後の作業を進めていきたいと思います。また、今回の研究セミナーでご一緒した藻谷さん、李さんの発表も印象に残りました。これらの発表は、研究上の興味深さはもちろん、同じく博士論文の完成を目指す立場として共感できる部分が多くありました。また、お 2 人の発表に先生方が寄せているコメントを聞いて、将来の論文執筆にあたり注意すべき点など、私も大いに勉強させていただきました。

最後になりましたが、私の発表の司会された近藤先生、担当スタッフの飯塚先生、黒木先生、髙松先生、長縄先生、小倉先生、熊倉先生、野田先生及び後藤先生をはじめ、発表を聞いてくださった AA 研研究員の皆様、そして本セミナーの事務・運営をして頂いた千葉さんに厚く御礼申し上げます。